

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立佐伯中学校	校長氏名	砂田 雅志	生徒指導主事氏名	三輪 範弘
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『 つながりを深めるデー 』

取組のねらい『キーワード：つながり』

- 小学生と中学生の交流を通して、児童生徒相互の人間関係を深め、小学校 6 年生児童の中学校へのスムーズな移行につなげる。
- 佐伯中学校 3 年生が、先輩として出身小学校の児童の活動等をサポートすることを通して、思いやりの気持ちと態度を育てる。
- 「はつかいち縦断みやじま国際トライアスロン大会」に来られる人を気持ちよく迎えるために、地域の清掃を行うことを通して、ボランティア精神と地域を大切に思う気持ちや地域への感謝の気持ちを育てる。

取組の具体的内容『キーワード：自己有用感と感謝』

- 中学 3 年生が出身小学校を訪問し、授業の支援（ピア・サポート）やクリーン活動（地域一斉清掃）、中学校オリエンテーションなどを行い、小学生と 1 日を共に過ごす活動。

- 1 はじめの会（構成的グループエンカウンター）
- 2 授業の支援（ピア・サポート）
 - ・中学生にとっては「自分のアドバイスから小学生の役に立っている。」という自己有用感につながっている。
- 3 クリーン活動（地域一斉清掃）
 - ・小中学校ともに地域に貢献しているという自己有用感の高揚となっている。
- 4 給食・校内清掃
- 5 交流会（中学校オリエンテーション）
- 6 終わりの会
 - ・小学生、中学生相互に感謝の意をことばであらわす。
- 7 振り返り（中学生のみ）



取組の課題・創意工夫『キーワード：自己決定と自己有用感』

- プログラムの中に、中学校の生徒が自分で考え、判断して、決めて実行できる場面を意図的に設定する。自分が小学生の時のことを思い出しながら、「出身小学校の児童たちが、どのように接すればうれしいと思うか、不安な気持ちが



解消されるか。」など、意見を出し合いながら考え、自己紹介の方法や中学校のオリエンテーションなどの内容を

決めていく。このことが、生徒の「自分たちが主体的に自分で決めて実行しているんだ。」という気持ち（自己決定感）を育てることにつながる。また、小学生の笑顔を見て、「来てよかった」と自己有用感を感じることもつながる。



取組の成果（効果）『キーワード：自己存在感・自己有用感の向上』

- 自己存在感の高まり
- 共感的人間関係の育成
- 自己有用感の向上



<児童・生徒の感想より>

・中学生は僕たちに勉強をわかりやすく教えてくれたり、休憩時には自分の友達のように遊んでくれたりしました。ケンカをしていると止めに入って仲直りさせたり、中学生のどの人にもとても尊敬できる場所があって、どんどんまねをして次に中学生として小学校に来るときは、



尊敬してもらえる先輩として来たいです。（小学生）

・小学生にいろいろなことを教え、人のために何かすることができて、本当に充実していました。そして、小学生から「ありがとう」と言われたことがとてもうれしかったです。（中学生）



今後の展開『キーワード：自己有用感・感謝』

- 本年度から、小中連携協議会の目標の副題を「自己有用感を育てる取組を通して」とし、その取組として、学校の行事などで「感謝を伝える場」を設定した。本年度は、各校が独自で取り組んだが、来年度からは小中が連携し、計画的に取組を進めていく。



他校へのアドバイス『キーワード：小中連携』

- 佐伯中学校区では、小中連携協議会の合同部会に教務部会と生徒指導部会を位置づけ、小中学校が積極的に情報交換し、意見交流を図る中で、課題を明らか



にし、9年間を見据えた共通の取組を進めるという「行動連携」を行い、児童の小学校から中学校へのスムーズな移行を推し進めている。また、生徒指導部会では、毎月1回、生徒指導主事が集まり、児童・生徒の様子や取組の状況等を交流し、計画的・継続的な取組を進めている。

